

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-171229

(P2020-171229A)

(43) 公開日 令和2年10月22日(2020.10.22)

(51) Int.Cl.
A24F 47/00 (2020.01)F1
A24F 47/00テーマコード (参考)
4B162

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2019-75239 (P2019-75239)
(22) 出願日 平成31年4月11日 (2019.4.11)(71) 出願人 519427192
インテレクトチュアルディスカバリーシー
ー., エルティーディー
大韓民国 ソウル特別市 江南区 驛三洞
708-8 セルバン ビル 15F
(06212)

(74) 代理人 100114188

弁理士 小野 誠

(74) 代理人 100160255

弁理士 市川 祐輔

(74) 代理人 100182132

弁理士 河野 隆

(74) 代理人 230126125

弁理士 後藤 未来

最終頁に続く

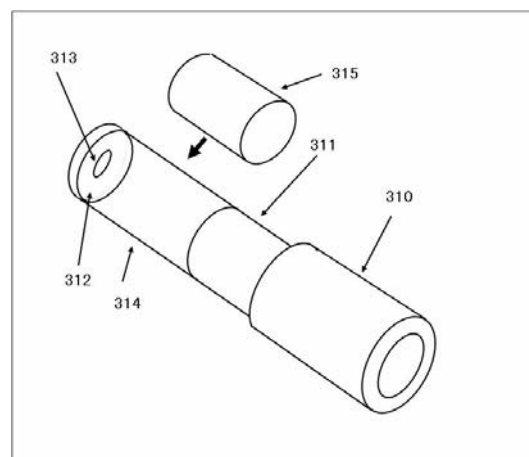
(54) 【発明の名称】 加熱式たばこの煙草葉装着方法

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】板状あるいはピン状のヒーターで加熱するピン型の加熱方式の喫煙治具で、煙草葉を入れて喫煙後、簡単に喫煙済みの煙草葉を、灰皿等に出すことが可能な喫煙治具を提供する。

【解決手段】煙草葉挿入管311の一部を切り欠き、この切り欠き部314に、ペレット状の煙草葉等を入れることにより、喫煙治具よりマウスピース310+煙草葉挿入管311を一緒に引き抜き、切り欠き部314から、喫煙済みの煙草葉等を、ポンと、灰皿等に捨てることが可能になる。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

煙草葉を加熱する喫煙治具において、マウスピースを取り付けられる煙草葉導入管 3 1 1 において、その一部を切り欠いて、煙草葉導入管の横方向から煙草葉を出し入れ出来るようにしたことを特徴とする煙草葉導入管

【請求項 2】

請求項 1 に記載の煙草葉導入管を使って挿入された煙草葉を加熱する事を特徴とする喫煙治具

【請求項 3】

請求項 1 に記載の煙草葉導入管において先端部に、耐熱性樹脂で造られたブッシュ、あるいは円形スペーサーをはめたことを特徴とする煙草葉導入管

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本願発明は、煙草葉（加熱式たばこや、火を点けて喫煙する紙巻煙草や、シャグや、シガー等の煙草葉）を、喫煙治具に挿入し、該挿入された煙草葉を、ヒーターで加熱して、該煙草葉から蒸発してくるニコチンや煙草風味を吸引できるようにした喫煙治具において、煙草葉を装着する方法に関するものである。

【背景技術】

【0002】

20

一般的に、ベポライザーといわれる喫煙治具は、煙草葉を、加熱筒の中に入れて、ドリップチップといわれる吸い口（マウスピース）を、取り付けて、該煙草葉の加熱により発生するニコチンや煙草風味を、ドロップチップから吸引するものである。アイコス/グロー/プルームエス等の加熱式たばこや、火を点けて喫煙する紙巻煙草に比べて、喫煙に必要なコストが安くなるために、人気がある商品である。挿入された煙草葉を加熱する方式は、大きく分けて、壺の中に煙草葉を入れて、壺の外側からヒーターで加熱する壺型の加熱方式と、板状あるいはピン状のヒーターを、挿入された煙草葉のほぼ中心に挿入して加熱するピン型の加熱方式の、二つの方式がある。壺型の加熱方式は、消費電力が大きく、治具の外側が熱くならないように、該ヒーターの周りには断熱材が必要で、治具が大きい。

30

【0003】

一方、ピン型の加熱方式は、挿入された煙草葉を中心から加熱するので、消費電力が少なく、断熱材を入れなくても、治具の外側は、あまり熱くならないので、駆動用の充電電池を小さく出来、かつ、コンパクトな治具が多い。

【0004】

しかしながら、ピン型の加熱方式を使っているベポライザーは、喫煙後の煙草葉を、簡単に取出せないという弱点があるために、ベポライザーは、ほとんどが、壺型の加熱方式のものである。すなわち、壺型の加熱方式の治具では、喫煙後、ドリップチップを外して、治具を叩けば、簡単に煙草葉は、出てくる。あるいは、金属製の筒（スペーサーと一般的には言われている）の中に煙草葉を入れたものを壺の中に入れて喫煙した場合、より簡単に、スペーサー（煙草葉入り）を取出すことが出来る。一般的には「シャグボン」といわれる動作で、簡単に取出すことが出来る。一方、ピン型の加熱方式のベポライザーは、挿入された煙草葉のほぼ中心にヒーターが挿入されるために、ヒーターと煙草葉間の摩擦のために、治具をボンと叩いても、煙草葉は、治具から出てこない。このために、消費電力が少なく、治具がコンパクトに出来るのに、ピン型の加熱方式のベポライザーは、ほとんど商品化されていないようである。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】特願 2018-246902 号公報

50

【特許文献2】特願2019-050700号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本願発明は、特許文献1 及び 特許文献2に記載の喫煙治具を、開発・商品化しているが、やはり、ユーザーからは、「シャグボン」が出来ないので、困るというご意見をいただいている。そこで、本願特許では、ピン型の加熱方式の喫煙治具でありながら、「シャグボン」が出来るように改良したベポライザーを提案する。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】本願発明による改良された煙草葉導入管と、マウスピースの外形図

【図2】図1に示す煙草葉導入管とマウスピースの軸方向断面図

【図3】特許文献1で、図7として開示された煙草葉導入管とマウスピースを挿入したときの喫煙治具の軸方向断面図

【図4】特許文献1で、図5として開示された煙草葉導入管とマウスピースの軸方向断面図

【発明を実施するための形態】

【0008】

図3は、特許文献1中で、図7として開示された無煙喫煙治具の軸方向断面図で、アトマイザー94を、加熱筒部に押し付ける役目をするバネ203と、アトマイザー94に電力を供給する510口金220と、アトマイザー94と、アトマイザー94と加熱筒部の間にあるブッシュ（特許文献2中では、穴付きシリコンに変更）230と、加熱筒部を構成する内管5と、リング400と、コネクタ202と、煙草保持部B95と、マウスピース310と、煙草葉挿入管311が、表示されている。アトマイザー94は、リキッドを入れる容器204と、内管206と、リキッドをヒーターに供給する穴207と、ヒーター205と、空気取り入れ口209と、510口金から構成されている。これらは、特許文献1 あるいは 特許文献2中で、詳しく説明されているので、ここでは説明を省略する。図4は、特許文献1中で、図5として開示された、マウスピース310と、煙草葉導入管311の軸方向断面図である。煙草葉導入管311の先端部311は、煙草葉導入管を絞って作ったり、金属製、あるいは、耐熱性樹脂製のワッシャーや、ブッシュを、はめ込んで作られる。いずれにしても、ほぼセンターには、ヒーターが通る穴313が作られている。

【0009】

喫煙者は、煙草導入管311に、煙草葉を入れて、マウスピースを取り付けた状態で、図3に示すように、喫煙治具に挿入する。この挿入により、ヒーター131は、挿入された煙草葉（図示せず）のほぼセンターに挿入され、効率よく、該煙草葉を加熱することが出来る。喫煙後は、マウスピース付き煙草導入管を、喫煙治具より抜きだして、マウスピースを外して、中の喫煙済みの煙草葉を廃棄する。この時、該煙草葉導入管は、加熱により熱くなっているので、冷えるまで、マウスピースを取り外すという動作は、出来ないという不便が、使用者から寄せられた。

【0010】

そこで、本願発明者は、上記不便を改善するために、図1 及び 図2に示すように該煙草導入管311の一部に切り欠き部314をもおけた。図1の外形図を使用してさらに詳しく説明する。煙草葉挿入管311は、肉厚0.1mm~0.5mmで、内径約7.7mmΦから9.0mmΦ位であればどのような寸法でも良いが、マウスピース310として使うドリップチップと勘合させるためには、8.9±0.1mmΦであることが必要である。実際の寸法は、肉厚0.25mm、内径8.9mmΦのAL管が使われている。先端部312は、絞り加工がされている。この絞り加工は、回転刃を有するパイプカッターを使用して、少し刃の切れ味を悪くした刃を使って切ることにより、AL管の肉厚が薄いこともあり、切断時に、内側に、絞りが形成されて切れることがわかった。この工法を使

10

20

30

40

50

って内側に絞りをを入れて切断することにより、AL管の内径と同じΦを有する金属製、耐熱樹脂製の円形スペーサー あるいは ブッシュを マウスピース側から挿入して奥に押し込むことにより、先端部312に、固定することが出来ることがわかった。あるいは、AL管の先端部を絞り加工することによっても作ることが出来る。このようにして作られた煙草葉挿入管311に、図示するように長さ10mm～15mmの半周以上の切り欠き部314を、レーザーや、グラインダー等を使って作成する。先端部312、切り欠き部314を有する煙草葉挿入管311に、マウスピース310を挿入したものを作る。この切り欠き部314に、315として表示される煙草葉入りスペーサー、あるいは、紙巻煙草を切断したもの、あるいは、煙草葉を圧縮して円筒状にしたペレット等を入れて、煙草保持部B95から喫煙治具に挿入して、ヒーター131で加熱して、喫煙する。喫煙後は、煙草葉挿入管311を、マウスピース310と共に引き出し、灰皿等に、315として表示される各種煙草葉をポンと廃棄することが出来る。この時、熱くなっている煙草葉挿入管311を手で触ることが無いので、火傷を負うことは無い。

10

【0011】

本願では、円筒状の煙草葉を挿入したが、煙草葉の形状は、どんな形でも良く、形状にはこだわらない。

【産業上の利用可能性】**【0012】**

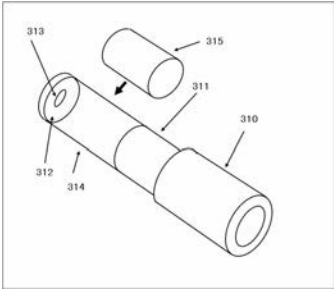
板状あるいはピン状のヒーターで加熱するピン型の加熱方式の喫煙治具で、煙草葉を入れて喫煙後、簡単に喫煙済みの煙草葉を、灰皿等に出すことが出来るようになった。すなわち、煙草葉等を入れる煙草葉挿入管の一部を切り欠き、この切り欠き部に、ペレット状の煙草葉等を入れ、マウスピースと一体になった状態で喫煙治具に挿入して、喫煙する。喫煙後、マウスピース+煙草葉挿入管を一緒に引き抜き、切り欠き部から、喫煙済みの煙草葉等を、ポンと、灰皿等に捨てることが可能になり、ピン型の加熱方式の喫煙治具でも、シャグポンが出来るようになった。

20

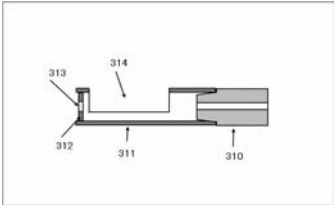
【符号の説明】**【0013】**

311 煙草葉導入管

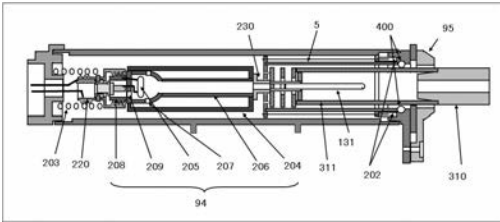
【図 1】



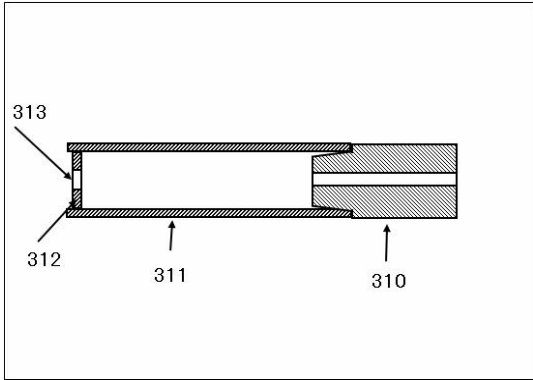
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(74)代理人 230127144

弁護士 安田 達士

(74)代理人 100148404

弁理士 横川 聡子

(72)発明者 清水 和彦

神戸市北区藤原台南町5丁目14-23

Fターム(参考) 4B162 AA03 AA05 AA22 AB12 AC06 AC12